

施策評価調書(1)

評価対象年度	令和4年度
--------	-------

めざす姿	Ⅱ 子どもから大人まで“個々が輝くまち”
施策名	2 子どもの成長をサポートする基盤づくり
施策関係課	(子ども部)青少年対策室／(教育総務部)教育総務課・生涯学習課／(学校教育部)庶務課・学務課・指導課・川口市立高等学校

●施策の基本方針(目標)

学校・家庭・地域と行政が相互に補完・連携しながら、さまざまな社会経験の場や見守りの機会を増やし、子どもの成長をサポートする基盤をより強固なものにしていきます。

●目標指標							
指標①	名称	この施策の推進が図られていると感じる人の割合(市民意識調査:Ⅱ-2)				単位	%
	目標値	現状値を上回る(令和7年度)		現状値	35.1(令和2年度)	指標の種別	成果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	34.300	35.900	0.000			
指標②	名称	不登校児童の割合(小学校)				単位	%
	目標値	現状値を下回る(令和7年度)		現状値	0.74(令和元年度)	指標の種別	結果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	0.860	1.200	0.000			
指標③	名称	不登校生徒の割合(中学校)				単位	%
	目標値	現状値を下回る(令和7年度)		現状値	4.25(令和元年度)	指標の種別	結果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	4.310	5.930	0.000			
指標④	名称	地域の人に勉強や運動を教えてもらっていると感じている児童の割合(小6)				単位	%
	目標値	現状値を上回る(令和7年度)		現状値	41.8(令和元年度)	指標の種別	成果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	39.500	39.500	0.000			
指標⑤	名称	地域・社会をより良くするための参画意識(中3)				単位	%
	目標値	現状値を上回る(令和7年度)		現状値	35.3(令和元年度)	指標の種別	成果
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
	実績値	34.300	35.600	0.000			

	(単位:千円)	令和3年度決算額	令和4年度決算額	令和5年度予算額	令和6年度計画額	令和7年度計画額
事業額	事業費	1,067,002	1,382,115	2,103,362	1,293,307	0
	概算人件費	132,278	156,772	166,300	164,305	0
	総事業費	1,199,280	1,538,887	2,269,662	1,457,612	0

*前年度に「完了」「休止」「廃止」となった事業額についても合算されています。

総合評価	評価結果	単位施策ごとの評価結果			総合評価の区分
	B	単位施策① 53	単位施策② 54	単位施策③	結果(平均値)が55以上:A 結果(平均値)が50以上55未満:B 結果(平均値)が40以上50未満:C 結果(平均値)が40未満:D
	(前回評価結果)	単位施策④	単位施策⑤	結果(平均値)	
	B			53.5	

施策評価調書(2)

評価対象年度	令和4年度
--------	-------

施策を構成する実施計画事業の状況

(単位:千円)

単位施策名 ① 学校の教育力向上								
事業名称	担当課	令和3年度 事業費 (決算額)	令和4年度 事業費 (決算額)	令和5年度 事業費 (予算額)	令和6年度 事業費 (計画額)	令和7年度 事業費 (計画額)	令和4年度の 総評価	令和5年度の 実施方向性
		概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
いじめ防止推進事業	子ども部	2,181	2,353	2,497	2,497	0	52	現状維持で実施
	青少年対策室	6,328	6,224	6,328	6,328	0		
中学校夜間学級運営費	教育総務部	3,622	1,900	2,607	2,607	0	56	現状維持で実施
	教育総務課	553	308	158	158	0		
中学校夜間学級新校舎建設事業	教育総務部	34,650	146,054	861,349	—	—	56	現状維持で実施
	教育総務課	3,397	2,310	1,975	—	—		
中学校夜間学級運営費	学校教育部	26,301	26,275	30,406	30,406	0	52	現状維持で実施
	庶務課	948	924	1,501	1,501	0		
中学校夜間学級運営費	学校教育部	661	1,304	5,652	5,742	0	52	現状維持で実施
	学務課	790	770	790	770	0		
生徒指導支援事業	学校教育部	8,094	2,250	3,378	3,378	0	56	現状維持で実施
	指導課	3,950	4,620	4,740	4,740	0		
学校教育研修事業	学校教育部	1,101	1,203	1,727	1,727	0	52	現状維持で実施
	指導課	11,850	13,090	18,960	18,960	0		
小学校ICT運用事業	学校教育部	379,431	551,288	531,122	567,996	0	56	現状維持で実施
	庶務課	16,195	19,635	20,145	20,145	0		
中学校ICT運用事業	学校教育部	241,810	336,887	332,722	326,722	0	56	現状維持で実施
	庶務課	7,505	10,395	10,665	10,665	0		
教職員安全衛生管理費	学校教育部	18,266	18,365	19,492	19,857	0	48	現状維持で実施
	学務課	3,950	3,850	3,950	3,950	0		
部活動指導員配置事業	学校教育部	7,725	10,047	11,198	11,198	0	52	現状維持で実施
	指導課	1,580	3,080	3,160	3,160	0		
教職員研修事業	学校教育部	8,485	6,549	7,444	7,444	0	52	現状維持で実施
	指導課	15,800	16,170	16,590	16,590	0		
教育図書整備事業	学校教育部	1,180	618	764	764	0	56	現状維持で実施
	指導課	790	770	790	790	0		
教育相談員活用事業	学校教育部	116,082	114,817	127,226	127,226	0	52	現状維持で実施
	指導課	15,800	15,400	15,800	15,800	0		
不登校児童生徒支援事業	学校教育部	730	810	1,108	1,108	0	52	現状維持で実施
	指導課	3,950	3,850	3,950	3,950	0		
学校教育研究支援事業	学校教育部	3,344	3,277	4,422	4,422	0	52	現状維持で実施
	指導課	6,320	13,090	13,430	13,430	0		
高等学校ICT運用事業	学校教育部	166,104	102,950	88,210	104,585	0	52	現状維持で実施
	川口市立高等学校	1,975	1,925	1,975	1,975	0		

単位施策名		② 地域の教育力・健全育成活動の充実						
事業名称	担当課	令和3年度 事業費 (決算額)	令和4年度 事業費 (決算額)	令和5年度 事業費 (予算額)	令和6年度 事業費 (計画額)	令和7年度 事業費 (計画額)	令和4年度の 総評価	令和5年度の 実施方向性
		概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
青少年センター等施設管理費	子ども部	5,494	5,413	6,860	6,860	0	42	現状維持で実施
	青少年対策室	1,422	5,313	5,451	5,451	0		
青少年体験活動事業	子ども部	60	277	2,370	2,370	0	52	現状維持で実施
	青少年対策室	0	3,850	3,950	3,950	0		
親子ふれあい事業	子ども部	1,646	2,339	2,865	2,865	0	56	現状維持で実施
	青少年対策室	3,577	3,465	3,555	3,555	0		
明るい街づくり推進事業	子ども部	982	1,323	1,591	1,591	0	54	現状維持で実施
	青少年対策室	4,031	3,632	3,710	3,710	0		
青少年団体活動支援事業	子ども部	4,416	6,277	10,619	10,619	0	56	現状維持で実施
	青少年対策室	3,397	3,080	3,160	3,160	0		
はたちの集い実行委員会交付事業	教育総務部	10,942	10,903	11,680	11,680	0	58	現状維持で実施
	生涯学習課	7,900	7,700	7,900	7,900	0		
子ども大学かわぐち実行委員会交付事業	教育総務部	0	200	200	200	0	56	現状維持で実施
	生涯学習課	0	2,541	2,607	2,607	0		
地域学校協働活動推進事業	教育総務部	23,645	28,386	35,797	39,387	0	56	拡充して実施
	生涯学習課	9,480	9,240	9,480	9,480	0		
未来を拓くふれあいトーク事業	学校教育部	50	50	56	56	0	52	現状維持で実施
	指導課	790	1,540	1,580	1,580	0		

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和4年度

事業名称	いじめ防止推進事業				担当	子ども部 青少年対策室
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 29 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	いじめ防止対策推進法、川口市いじめを防止するためのまちづくり推進条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民	子ども	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	「川口市いじめを防止するためのまちづくり推進条例」に基づき、いじめの防止、早期発見、対応に資するため。	「川口市いじめから子どもを守る委員会」を設置し、いじめに関する相談に応じ、必要な調査、調整等を行う。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	<ul style="list-style-type: none"> ・月3回相談日を設け、専門の委員が面接を実施 ・教職員等が対象のいじめ対応についての勉強会等を開催 ・相談申込の入力フォームを設定し、市内小中学校等へQRコード付きのチラシ及びカードを配付 ・広報紙にいじめ特集を掲載、メールでの相談受付 ・いじめ撲滅キャンペーン(街頭での啓発物配布等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場で対応できなかったケースを、学校・教育委員会と連携を図りながら解決等に繋げることができた。 ・市内小中学校の教職員等を対象に専門の委員と意見交換する勉強会等を実施し、いじめ対応への理解を深める場を提供できた。 	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	いじめから子どもを守る委員会ケース数			指標・目標値の説明(算定式)	事業の趣旨にそぐわないため、目標値を設定しない。				
	単位	ケース	指標の種別	結果						
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度				
	実績値・達成状況	8.00	—	11.00	—	20.00				
指標②	名称	いじめ対応についての勉強会等			指標・目標値の説明(算定式)	事業の趣旨にそぐわないため、目標値を設定しない。				
	単位	回	指標の種別	結果						
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度				
	実績値・達成状況	3.00	—	2.00	—	3.00				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	3 款	3 項	1 目	5 細目	1 細々目	いじめ防止推進事業			
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度					
予算額(A)	2,869	2,993	2,477	2,497	2,497					
決算額(B)=(C)+(D)	2,073	2,181	2,353							
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0					
	一般財源(D)	2,073	2,181	2,353	2,497					
概算人件費(E)	5,093	6,328	6,224	6,328	6,328					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.27	0.80	0.27	0.60	0.52	0.60	0.52	0.60
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,166	8,509	8,576	8,825	8,825					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	いじめから子どもを守る委員会への相談の多くは、学校に相談しても解決に向かわなかったケースである。今後も学校の対応力強化を目的とした教職員等向けの勉強会等実施を継続するとともに、学校・教育委員会との連携を取りやすい体制づくりを推進する。また、面接相談につながるよう、より相談しやすい対応方法等を検討する	翌年度 現状維持で実施 翌々年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	中学校夜間学級運営費				担当	教育総務部 教育総務課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	048-258-1259	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和	元	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	中学校夜間学級施設	生徒	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	中学校夜間学級施設の維持、管理	中学校夜間学級施設の施設管理に必要な役務、委託、賃貸借 中学校夜間学級施設に係る小破修繕料	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	中学校夜間学級施設や設備の不具合を是正した。 法令に基づき、建築設備や消防設備、電気設備の点検業務を委託した。 令和元年度に設置した空調機のリース契約を継続した。	中学校夜間学級施設の適切な維持、管理が可能となった。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	3 項	1 目	2 細目	5 細々目	中学校夜間学級運営費			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
予算額(A)	5,450	4,315		3,090		2,607		2,607		
決算額(B)=(C)+(D)	5,078	3,622		1,900						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	5,078		3,622		1,900		2,607		
概算人件費(E)	553		553		308		158		158	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.07	0.00	0.07	0.00	0.04	0.00	0.02	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	5,631		4,175		2,208		2,765		2,765	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	ニーズに応えるために、学校現場の職員と相談しながら、適切な環境を整備する必要がある。	翌年度 現状維持で実施 翌々年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	中学校夜間学級新校舎建設事業				担当	教育総務部 教育総務課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	048-258-1259	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	30	年度	～	令和	5	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上						
根拠法令等							

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	一部委託		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)			受益者(最終的に受益を受ける人)		
	中学校夜間学級施設			生徒		
事業の概要	事業の目的(何のために)			事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	様々な理由で十分な教育を受けられないまま学齢期を経過した方々や外国籍の方々などに対して教育の機会を保障することを目的として、中学校夜間学級を設置するもの。			旧県陽高等学校校舎宿棟を活用した中学校夜間学級の開校に向けた改修。 旧芝園小学校敷地内での新校舎開設に向けた設計及び校舎建設工事等。		
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)			事業の成果【定性的評価】		
	プール解体工事 新校舎建設工事(2か年のうち、1年目)			新校舎建設工事に着手した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	3 項	4 目	1 細目	1 細々目	中学校夜間学級新校舎建設事業					
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度					
予算額(A)	568,189	35,269		404,529		861,349	0					
決算額(B)=(C)+(D)	76,264	34,650		146,054								
財源※	特定財源(C)	0		99,628		850,499						
	一般財源(D)	76,264	34,650		46,426		10,850					
概算人件費(E)	2,370	3,397		2,310		1,975	0					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.30	0.00	0.43	0.00	0.30	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	78,634		38,047		148,364		863,324		0			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策		今後の実施方向性	
56 /60	年齢や国籍が異なる中学校夜間学級の生徒にとって、よりよい学びの場を提供できる校舎の建設を進めなければならない。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	完了

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	中学校夜間学級運営費				担当	学校教育部 庶務課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110 18620	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和 元 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	川口市立芝西中学校陽春分校(中学校夜間学級)及び同校に在籍する生徒並びに職員	川口市立芝西中学校陽春分校(中学校夜間学級)に在籍する生徒及び周辺住民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の施行に伴い、形式卒業や不登校等により、学び直しを希望する方々に教育の機会を確保する。	芝西中学校陽春分校の運営に係る基礎的経費の支出 学校配当予算等、中学校夜間学級の自律的運営に係る経費の支出 中学校長会等の各種負担金の支出 学校管理に関わる業務を人材派遣及び委託により実施	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	・芝西中学校陽春分校の運営に係る基礎的経費の支出 ・学校配当予算等、中学校夜間学級の自律的運営に係る経費の支出 ・中学校長会等の各種負担金の支出 ・学校管理に関わる業務を人材派遣及び委託により実施	円滑な中学校夜間学級の運営を行い、生徒を進級又は卒業させることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	3 項	1 目	2 細目	5 細々目	中学校夜間学級運営費						
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度						
予算額(A)	39,647	29,279		29,795		30,406	30,406						
決算額(B)=(C)+(D)	35,579	26,301		26,275									
財源※	特定財源(C)	1,837	2,035		4,234		2,564						
	一般財源(D)	33,742	24,266		22,041		27,842						
概算人件費(E)		1,264	948		924		1,501	1,501					
従事職員人数(人)		常勤	再任用	0.16	0.00	0.12	0.00	0.12	0.00	0.19	0.00	0.19	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		36,843		27,249		27,199		31,907		31,907			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	義務教育を提供する場でありながら、県内の学齢期を超えた年齢の生徒を受け入れるため、毎年の生徒数の把握が困難である。 外国籍の生徒が多く、日本語が堪能でないことから、通常の中学校とは異なる学習形態となっており、継続して研究を行い、改善を図る必要がある。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	中学校夜間学級運営費				担当	学校教育部 学務課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110(18720,18734)	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和 元 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	川口市民、埼玉県民	全校生徒は43名。	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	川口市民、埼玉県民のうち、学び直しを希望15歳以上の 人々に、中学校課程の教育の機会を確保するもの。	川口市立の中学校夜間学級の運営を行うもの。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	川口市立芝西中学校陽春分校(夜間中学)の運営に必要な アシスタントティーチャーへの賃金の支払い等を行い、事業 支援を図った。	令和4年度は24名が入学した。現在、埼玉県内の(川口市を除く)11市 から生徒が在籍している。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の 説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	3 項	1 目	2 細目	6 細々目	中学校夜間学級運営費				
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度				
予算額(A)	3,637	4,165		2,639		5,652	5,742				
決算額(B)=(C)+(D)	292	661		1,304							
財源※	特定財源(C)	292	27		0		2,114				
	一般財源(D)	0	634		1,304		3,538				
概算人件費(E)	790	790		770		790	770				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,082	1,451		2,074		6,442	6,512				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	教育費の応分負担に関して県教育委員会や他市町村との連携を強化し、よりよい方策を検討していくことや、生徒一人ひとりのニーズに応じた、教育課程を工夫し、教育活動の充実を図ることが課題である	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	生徒指導支援事業				担当	学校教育部 指導課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	7	年度	～		年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上					
根拠法令等						

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)			受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市立幼稚園及び小・中・高等学校に在籍する教職員			市立幼稚園及び小・中・高等学校に在籍する教職員から指導を受ける幼児及び児童生徒		
事業の概要	事業の目的(何のために)			事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	生徒指導について、その意義と課題への理解を深め、必要な知識や技能を習得し、積極的に推進するとともに学校を支援することにより、いじめ等の生徒指導上の諸問題の解決を図る。			いじめ問題対策協議会の開催及び生徒指導研修会の実施に対する支援を行う。また、市内小・中学校の代表児童生徒が参加するいじめゼロサミットを開催する。		
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)			事業の成果【定性的評価】		
	7月と1月に計2回、いじめ問題対策協議会を開催した。7月(オンラインによる)と12月にいじめゼロサミットを開催し、いじめ予防授業や各校でのいじめ根絶対策紹介・いじめ根絶に向けた協議を行った。生徒指導研修会(オンラインによる)、いじめ対応教員研修会(全3回)を実施した。			各学校において、いじめ問題解消をはじめとする諸問題の解決に向けた意識や意欲の高揚を図ることができた。生徒指導研修会は、生徒指導に対する指導力向上を図ることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	4 細目	1 細々目	生徒指導支援事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	4,061	8,095		3,076		3,378	3,378			
決算額(B)=(C)+(D)	4,053	8,094		2,250						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	4,053	8,094		2,250		3,378	3,378		
概算人件費(E)	3,950	3,950		4,620		4,740	4,740			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	8,003		12,044		6,870		8,118		8,118	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策		今後の実施方向性	
56 /60	教職員の資質や指導力の更なる向上を図り、いじめ等諸問題の未然防止や、早期発見、適切な対応・解決につなげるため、研修会等をより一層充実させる必要がある。実施後の状況や効果を検証するとともに、内容や時期を精査し、計画的に事業を推進していく。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和4年度

事業名称	学校教育研修事業				担当	学校教育部 指導課	
事業区分	主要事業	政策宣言	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	44	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上				
根拠法令等	川口市教育研修生志願者募集要項				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	直営		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)			受益者(最終的に受益を受ける人)		
	・市立幼稚園長、小・中・高等学校校長及び教頭 ・市立幼稚園、小・中・高等学校に在籍する教員			市立幼稚園、小・中・高等学校に在籍する教職員及び教員から指導を受ける児童生徒		
事業の概要	事業の目的(何のために)			事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	学校経営、運営及びマネジメントに関する研修会を実施することにより、各管理職の資質及び能力の向上を図る。また、経験年数等に応じた研修を実施することで、教育に関する識見を高め、教員としての資質及び指導力の向上を図り、学校教育の充実を図る。			円滑な学校経営の推進を図る学校経営研修会、人権問題の現状を把握して役立てる人権教育管理職研修会、学校運営を充実・発展させる教頭マネジメント研修会の実施。教育研修生に対し、教育相談研修会、教育指導パワーアップ研修会及び教育経営研修会を実施。その他、教員を対象とした各種研修会の実施。		
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)			事業の成果【定性的評価】		
	学校経営研修会、人権教育管理職研修会、教頭マネジメント研修会を各1回、教育研修生を対象とした教育相談研修会を計5回、教育指導パワーアップ研修会を計5回、教育経営研修会を計2回、その他、高等学校教職員研修、日本語指導研修、5ラウンドシステム研修等を実施した。内容に応じ対面またはオンラインで実施するなど実施方法を工夫した。			学校経営研修会等では、様々な教育課題に対する学校の主体的な取り組みの推進に寄与すること、教育研修生の研修では、課題解決に向けた総合的な力を修得することや実践力を高めること、各種研修は教員の授業力向上を図ることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	教育研修生対象研修参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	指標:研修生として採用される教員の3種の研修会の合計参加者数 目標値:効率的かつ充実した研修となるための人数を踏まえて設定する研修生の3種の研修会における合計募集人数					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実績値・達成状況	62.00 未達成		77.00 未達成		97.00 達成					
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別									
	目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	4 細目	3 細々目	学校教育研修事業					
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度				
予算額(A)	2,115	1,455		1,841		1,727		1,727				
決算額(B)=(C)+(D)	671	1,101		1,203								
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0				
	一般財源(D)	671		1,101		1,203		1,727				
概算人件費(E)	9,480		11,850		13,090		18,960		18,960			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.20	0.00	1.50	0.00	1.70	0.00	2.40	0.00	2.40	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	10,151		12,951		14,293		20,687		20,687			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策		今後の実施方向性	
52 /60	幼稚園教育、義務教育及び高校教育を対象とし、効果的な研修となるよう、教育の質の向上に繋がる高度な知識を持つ講師や効果的なテーマを選定する必要があることから、今後とも様々な視点・観点からの講演ができる講師の情報を収集し、研修内容及び実施期間等を精査し、計画的に研修を実施して充実させていく。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	小学校ICT運用事業			担当	学校教育部 庶務課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1110 18615	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 22 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	学校教育の情報化の推進に関する法律 等

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立小学校の教職員及び児童	市立小学校の教職員及び児童	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	校務支援システムを導入し、学校における事務作業の統一化、効率化を図り、職員の負担軽減を進める。 児童が論理的な思考を学ぶための環境を整備する。 多様な児童たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を整備する。	校務系システム及び学習系システムの運用管理及び契約更新を行う。 GIGAスクール構想に基づく個別最適な学びの実現に向けて、運用保守業務等の環境整備を図る。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	校務系システム及び学習系システムの運用管理及び契約更新を行った。 高速大容量の通信ネットワークや児童1人1台端末の運用保守等の環境整備を行った。	校務支援システムを適切に運用管理することにより、学校職員の負担軽減を図ることができた。 GIGAスクール構想に基づく個別最適な学びの実現に向けて、運用保守業務等の環境整備を図り、児童の教育活動を進めることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	2 項	1 目	2 細目	4 細々目	小学校ICT運用事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
予算額(A)	2,671,763	386,044		554,599		531,122		567,996		
決算額(B)=(C)+(D)	2,658,666	379,431		551,288						
財源※	特定財源(C)	2,333,606		10,187		210,131		13,782		
	一般財源(D)	325,060		369,244		341,157		517,340		
概算人件費(E)	16,195		16,195		19,635		20,145		20,145	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.05	0.00	2.05	0.00	2.55	0.00	2.55	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	2,658,666		395,626		570,923		551,267		588,141	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	情報システムの運用にあたっては、学校・関係各課・事業者と情報共有を行い、課題解決に向け協力して進めていく必要がある。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	中学校ICT運用事業			担当	学校教育部 庶務課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1110 18615	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 22 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	学校教育の情報化の推進に関する法律 等

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立中学校の教職員及び生徒	市立中学校の教職員及び生徒	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	校務支援システムを導入し、学校における事務作業の統一化、効率化を図り、職員の負担軽減を進める。生徒が論理的な思考を学ぶための環境を整備する。多様な生徒たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を整備する。	校務系システム及び学習系システムの運用管理及び契約更新を行う。GIGAスクール構想に基づく個別最適な学びの実現に向けて、運用保守業務等の環境整備を図る。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	校務系システム及び学習系システムの運用管理及び契約更新を行った。 高速大容量の通信ネットワークや生徒1人1台端末の運用保守業務等の環境整備を行った。	校務支援システムを適切に運用管理することにより、学校職員の負担軽減を図ることができた。 GIGAスクール構想に基づく個別最適な学びの実現に向けて、運用保守業務等の環境整備を進めながら、コンピュータ教室の継続運用を図り、生徒の教育活動を進めることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値								
	実績値・達成状況								
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値								
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	3 項	1 目	2 細目	4 細々目	中学校ICT運用事業	
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度	
予算額(A)	1,237,852	243,836		337,113		332,722	326,722	
決算額(B)=(C)+(D)	2,658,666	241,810		336,887				
財源※	特定財源(C)	2,333,606		5,165		210,094	6,892	
	一般財源(D)	325,060		236,645		126,793	325,830	
概算人件費(E)	7,505		7,505		10,395		10,665	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.95	0.00	0.95	0.00	1.35	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	2,666,171		249,315		347,282		343,387	337,387

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	情報システムの運用にあたっては、学校・関係各課・事業者と情報共有を行い、課題解決に向け協力して進めていく必要がある。	翌年度 現状維持で実施 翌々年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	教職員安全衛生管理費			担当	学校教育部 学務課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110(18735)	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上		
根拠法令等	労働安全衛生法		

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立学校・幼稚園に勤務する教職員	市立学校に勤務する教職員および市立学校に在籍する児童・生徒	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進すること。	労働安全衛生法に基づく事業を実施する。 ・安全衛生委員会の開催 ・メンタルヘルスカウンセラー・産業医の派遣 ・ストレスチェックの実施	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	・安全衛生委員会の開催(8,12,3月) ・メンタルヘルスカウンセラーの派遣(408回/年) ・産業医の派遣(196回/年) ・全教職員に対しストレスチェックの実施(6月)	ストレスチェックにより精神的負担の大きい教職員を把握し、必要に応じて産業医やメンタルヘルスカウンセラーを派遣することで、改善・治療につなげることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	2 目	1 細目	6 細々目	教職員安全衛生管理費	
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度	
予算額(A)	19,536	19,358		18,812		19,492	19,857	
決算額(B)=(C)+(D)	17,759	18,266		18,365				
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0	
	一般財源(D)	17,759		18,266		18,365	19,492	
概算人件費(E)	3,950		3,950		3,850		3,950	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	21,709		22,216		22,215		23,442	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	どちらともいえない	11 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
48 /60	精神疾患による休職者は増加傾向にあり、各校において労働安全衛生面の改善およびメンタルケアの充実が必要である。令和5年度以降も適切な委員会運営およびメンタルヘルスカウンセラー・産業医の有効活用に取り組んでいく。	翌年度 現状維持で実施 翌々年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和4年度

事業名称	部活動指導員配置事業			担当	学校教育部 指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 28 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	学校教育法施行規則、川口市部活動指導員設置要綱、川口市部活動指導員実施要領

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立中学校に在籍する生徒及び教員	市立中学校に在籍する生徒及び教員	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	教育に対する理解及び専門的技術力を備えた地域の指導者を顧問として配置することにより、部活動の充実・活性化を図り、また、学校の教育力・組織力を効果的に高めるとともに、教員の負担軽減を図る。	希望校に対し部活動指導員を配置する。部活動支援員の活動内容…教員と連携のうえ、①顧問として部活動の指導②大会、練習試合にかかる生徒の引率及び監督③教職員との連携による安全指導及び生活指導等を行う。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	4月初旬から2月末までの約11ヶ月間、市立中学校(安行・芝東・榛松・小谷場に1人ずつ、西・北・芝西・戸塚・里に2人ずつ、在家に3人)計10校17人、運動部に14人、文化部に3人を配置した。	専門の指導員を配置することにより、生徒の競技力や意欲の向上、安全面への配慮など、部活動指導の充実を図ることができた。また、教員の負担軽減の実現により、教員の資質の向上を図ることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位			指標の種別				
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位			指標の種別				
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	3 細目	14 細々目	部活動指導員配置事業				
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度				
予算額(A)	5,976	9,107		10,656		11,198	11,198				
決算額(B)=(C)+(D)	5,681	7,725		10,047							
財源※	特定財源(C)	3,472	4,616		5,692		6,476				
	一般財源(D)	2,209	3,109		4,355		4,722				
概算人件費(E)	790	1,580		3,080		3,160	3,160				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.10	0.00	0.20	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	6,471	9,305		13,127		14,358	14,358				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	部活動指導の充実及び教員の負担軽減のため、指導員数の増員や県の補助が終了した後の事業継続について調査研究を進めていく必要がある。配置校からの評価が非常に高い事業であることから、今後も継続、更には拡充を目指し、優れた指導者を招聘するとともに、予算の確保に努める。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和4年度

事業名称	教職員研修事業			担当	学校教育部 指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 30 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	川口市立小・中学校中堅教諭等資質向上研修実施要項

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立幼稚園及び小・中・高等学校に在籍する教職員	市立幼稚園及び小・中・高等学校に在籍する教職員から指導を受ける幼児及び児童生徒	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	教職員の資質を高め、市民の信託に応える魅力ある教職員の育成を図る。	平成30年度に中核市に移行したことに伴い、県から委譲された事業。小中学校県費負担教職員の10年経験者研修である中堅教諭等資質向上研修は、本市で独自の研修体系を構築し実施する。また、その他、県で主催し実施している研修は、県と委託契約等を締結し、県への委託により実施する。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	小中学校県費負担教職員等の10年経験者研修である中堅教諭等資質向上研修については、前年度に立案した計画のもと、本市で企画・運営し、実施した。また、その他、県主催研修については、県の研修実施各課と委託契約を締結し、県への委託により実施した。	研修を通じ、教職員としての資質向上を図ることはもとより、中堅教諭等資質向上研修において独自の研修体系を構築することにより、本市の歴史等について、より理解を深める内容や、本市の児童生徒の実態に即した実践的な研修プログラムを実施することができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	4 細目	2 細々目	教職員研修事業	
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度
予算額(A)	11,871	9,702		10,936		7,444		7,444
決算額(B)=(C)+(D)	6,224	8,485		6,549				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		
	一般財源(D)	6,224		8,485		6,549		7,444
概算人件費(E)	15,800		15,800		16,170		16,590	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.00	0.00	2.00	0.00	2.10	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	22,024		24,285		22,719		24,034	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	中堅教諭等資質向上研修は、100人以上を収容できる研修会場の確保が困難であること、また、講師や指導者などの人材確保や費用負担も課題となっている。県への委託により実施している研修も、令和5年度より市独自で実施することから、今後も、教育センターの設立構想と併せ、運営について調査研究していく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	拡充して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	教育図書整備事業			担当	学校教育部 指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上		
根拠法令等			

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	指導課に所属する指導主事	市立幼稚園及び小・中・高等学校に在籍する幼児及び児童生徒	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	指導主事の弛まぬ研鑽や研修によって、指導力の向上を図り、市立学校に在籍する教職員に対する有益な指導・支援につなげる。また、教育研究所としての機能を果たすため、教育関連の文献や資料の充実を図る。	教科等指導用図書、一般紙、教育専門紙の新聞、教育関連の雑誌及び加除式図書の追録を購入する。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	教科等指導用図書、全国紙(産経・朝日)、地方紙(埼玉)、教育専門紙(教育・日本教育)の新聞、教育関連の雑誌(教科等の月刊誌など)及び加除式図書の追録を購入した。	指導主事が教育に関する最新かつ時勢に合った情報を入手し文献研究をすることにより、学校現場に対して有益な指導・支援を展開することができた。また、教育関連図書を計画的に購入することにより、教育研究所としての機能を充実させることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値								
	実績値・達成状況								
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値								
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	4 目	1 細目	2 細々目	教育図書整備事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	2,508	1,200		618		764	764			
決算額(B)=(C)+(D)	2,480	1,180		618						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	2,480	1,180		618		764	764		
概算人件費(E)	790	790		770		790	790			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	3,270	1,970		1,388		1,554	1,554			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市民との必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	児童生徒の学力向上のための支援や生徒指導上の問題への対応を適切かつ的確に実施する必要があることから、教科等指導用図書、新聞・雑誌、加除式図書等の更なる有効活用を図っていく。また、教育研究所としての機能を果たす必要があることから、教育関連図書の更なる計画的導入を推進していく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	教育相談員活用事業			担当	学校教育部 指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 61 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	教育研究所教育相談員設置要綱、教育研究所カウンセラー設置要綱、川口市教育相談支援員設置要綱等

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市内在住の幼児、児童生徒及び保護者並びに市立幼稚園・学校に在籍する教職員	市内在住の幼児、児童生徒及び保護者並びに市立幼稚園・学校に在籍する教職員	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	児童生徒、保護者又は教職員からの各種教育相談に対し、臨床心理士等が専門的な見地に対応するとともに、市立幼稚園及び学校に対する適切、的確かつ迅速丁寧な指導、助言や支援を行うなど、円滑な相談体制を構築し、教育上の諸問題の解決を図る。	教育に関して広く高い識見を有する教育相談員、臨床心理士等有資格者の教育カウンセラーなどを教育研究所内教育相談室に配置し、児童生徒、保護者又は教職員からの教育相談に対し助言、支援等を行い、関連情報の収集や提供を行う。また、中学校に児童生徒の相談や支援を行う教育相談支援員を配置する。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	教育相談員による専門的な見識からの教育相談や、有資格の教育カウンセラーによるカウンセリング、精神科医による医療相談などを実施した。	いじめや不登校などの学校教育における重要課題をはじめ、精神医療面や特別支援教育などの専門的な分野も含め、学校と連携を図り、児童生徒等の多種多様で困難な問題に関する教育相談内容に適切かつ的確に対応することにより、個別事例の解決・解消に寄与した。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	4 目	2 細目	1 細々目	教育相談員活用事業				
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度				
予算額(A)	116,176	117,963		116,425		127,226	127,226				
決算額(B)=(C)+(D)	115,347	116,082		114,817							
財源※	特定財源(C)	18,867	18,692		20,431		24,813				
	一般財源(D)	96,480	97,390		94,386		102,413				
概算人件費(E)		15,800	15,800		15,400		15,800	15,800			
従事職員人数(人)		常勤	再任用	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)		131,147		131,882		130,217		143,026		143,026	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	教育相談やカウンセリングを必要とする教育上の諸問題(件数)は増加傾向にあり、かつ内容が多様化・複雑化していることから、教育相談員等の負担も増大している。今後、体制の一層の拡充が望まれることから、教育相談技術の向上を図るための取組みを行い、資質の高い、優秀かつ適切な人材の確保を図っていく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	不登校児童生徒支援事業			担当	学校教育部 指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 4 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	適応指導教室実施要項、保護者と共に不登校を考える会開催要項、訪問相談員活用事業実施要綱・要領・要項

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市内在住又は市立小・中学校に在籍する児童生徒及び保護者、教職員、不登校問題に関心のある方	市内在住又は市立小・中学校に在籍する児童生徒及び保護者、教職員	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	不登校児童生徒が社会において自主的に生きる基礎を養成するとともに、当該児童生徒の自主性の伸長や社会性の発達を促し、社会的自立心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室を展開し、集団生活への適応と学校復帰への意欲を高めるための教育相談、体験活動、創作活動、校外学習等を行う。 訪問相談員による家庭訪問を行い、児童生徒を支援するとともに、必要に応じて在籍校と連携を図り、情報の提供や収集を行う。 	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	適応指導教室において、教科の学習などの各種活動を計画的に実施するとともに、保護者と共に不登校を考える会を2回開催した。また、不登校傾向の児童生徒の家庭を訪問し、教育相談から適応指導教室等、他の支援につなげるなどの活動を行った。	集団活動や体験活動を通して、人間関係づくりへの自信が育まれるよう、学校復帰を目指す児童生徒を支援し、不登校の解消に寄与した。また、児童生徒に対し、継続的かつ寄り添った支援を行い、信頼を得ることで、問題の解消に寄与した。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	適応指導教室通級者数及び学校復帰人数			指標・目標値の説明(算定式)	指標: 適応指導教室通級者数のうち学校に復帰した人数。 目標値: 適応指導教室に通級する児童生徒の合計人数				
	単位	人	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度
	実績値・達成状況	10.00	未達成	6.00	未達成	6.00	未達成			
指標②	名称	適応指導教室通級者の学校復帰率			指標・目標値の説明(算定式)	適応指導教室通級者数のうち学校に復帰した人数/適応指導教室に通級する児童生徒数				
	単位	%	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度
	実績値・達成状況	58.82	未達成	75.00	未達成	42.86	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	4 目	2 細目	3 細々目	不登校児童生徒支援事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
予算額(A)	1,741	1,134		1,100		1,108		1,108		
決算額(B)=(C)+(D)	832	730		810						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	832	730		810		1,108		1,108	
概算人件費(E)	3,160	3,950		3,850		3,950		3,950		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.40	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	3,992	4,680		4,660		5,058		5,058		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	対象児童生徒への支援は、学校と連携しつつ工夫を重ね、更なる充実を図る。学校復帰に向けて個別の事情に応じた支援を計画的に実施するため、効果的なプログラムについて検討を行う。また、訪問相談の内容も多様化していることから、児童生徒の心の問題に寄り添い、解決に導くため、相談員の更なる資質向上に継続して取り組んでいく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	学校教育研究支援事業			担当	学校教育部 指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上		
根拠法令等	研究委嘱に関する要綱、川口市課題研究実施要綱		

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部補助金・負担金
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立幼稚園、小・中・高等学校、川口市教育研究会、川口市学校体育協会及び川口市立幼稚園教育研究協議会に在籍する教職員	市立幼稚園、小・中・高等学校、川口市教育研究会、川口市学校体育協会及び川口市幼稚園教育研究協議会に在籍する教職員から指導を受ける園児及び児童生徒	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	教育課題等についての研究活動を通して、教職員の指導力の向上を図る。また、学校単位の委嘱研究、各教科領域等の主体的な研究活動を支援し、教育水準の向上を図ることにより、本市学校教育の一層の充実・振興に寄与する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究委嘱校による研究発表会に大学教授等の学識経験者を派遣する。 ・14の教科・領域部門について、教員から4名程度を研究員として委嘱・任命し、テーマを設定して2年間の研究を実施する。 ・教育研究会等の各部門別研究組織等に運営経費等の一部を助成し、教科指導力向上を目的とした自主的な取組を支援する。 	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	2年間の委嘱研究のうち、1年目は文書による中間報告、2年目は発表会を実施し、研究紀要を発行した。研究員は、分科会にて授業研究等を推進し、1年次は中間発表、2年次は本発表会を実施し、研究紀要を発行した。また、教育研究会等に助成金を交付し、研修会等の実施のための支援を行った。	研究委嘱校及び各研究実施団等を支援することで、学校または校種を超えた教員相互のネットワークの形成が図られ、課題研究における結果は、教科領域の指針を示すものとして本市の教育水準の発展のために機能している。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	市教育研究会各研究部授業公開回数			指標・目標値の説明(算定式)	指標：市教育研究会の各研究部が実施する授業公開の合計回数。 目標値：市教育研究会の研究部門数×各部1回実施。				
	単位	回	指標の種別	活動		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	22.00		22.00	22.00	22.00	22.00	22.00	22.00	
	実績値・達成状況	0.00	—	0.00	—	0.00	未達成			
指標②	名称	教育講演会聴講者数			指標・目標値の説明(算定式)	指標：市教育研究会会員の聴講者数 目標値：市教育研究会会員数×50%				
	単位	人	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	1,184.00		1,198.00	1,217.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績値・達成状況	0.00	—	0.00	—	0.00	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10款	1項	4目	3細目	1細々目	学校教育研究支援事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	2,723	4,393		4,159		4,422	4,422			
決算額(B)=(C)+(D)	2,698	3,344		3,277						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	2,698		3,344		3,277	4,422			
概算人件費(E)	4,740		6,320		13,090		13,430		13,430	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.00	0.80	0.00	1.70	0.00	1.70	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,438		9,664		16,367		17,852		17,852	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市民との必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	児童生徒が、確かな学力、健やかな体及び豊かな心を確実に身に付けられるよう、今後とも、教育ニーズに対応したテーマを検討のうえ、課題研究を実施する。また、助成金の効果的な活用により各教科領域の自主的な研究活動を支援するとともに、研究成果について市立学校全体での共有と一層の浸透を図り、よりよい教育につなげていく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	高等学校ICT運用事業			担当	学校教育部 川口市立高等学校	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-483-5917	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 22 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-① 学校の教育力向上
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	川口市立高等学校の生徒・教職員	川口市立高等学校の生徒・教職員	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	川口市立高等学校におけるICTを活用した教育活動の推進及び教職員の事務負担の軽減を図る。	教材用PC、校務用PC等のICT環境整備を行う。	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	<ul style="list-style-type: none"> 教材用PC機器等のリース 校務用PC機器等のリース 校内ネットワーク機器の追加整備 GIGAスクール端末の運用 情報セキュリティ研修の実施 	教材用PC機器等を整備することで、新学習指導要領に即した新たな学びに対応した学習環境を提供することができた。 校務用PC機器等を整備することで、教職員の事務を円滑に行うことができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	4 項	1 目	2 細目	5 細々目	高等学校ICT運用事業	
年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	181,780	181,095	103,228	88,210	104,585			
決算額(B)=(C)+(D)	100,173	166,104	102,950					
財源※	特定財源(C)	26,160	92,181	25,396	25,918			
	一般財源(D)	74,013	73,923	77,554	62,292			
概算人件費(E)	1,975	1,975	1,925	1,975	1,975			
従事職員人数(人)	常勤 再任用	0.25 0.00	0.25 0.00	0.25 0.00	0.25 0.00	0.25 0.00	0.25 0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	102,148	168,079	104,875	90,185	106,560			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	今後の整備計画と運用管理の検討。	翌年度 現状維持で実施 翌々年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和4年度

事業名称	青少年センター等施設管理費			担当	子ども部 青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	50	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実				
根拠法令等	川口市立青少年センター設置及び管理条例				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	西川口青少年センター・前川青少年センター・元郷青少年センター・本町青少年センター・並木青少年センター・芝富士青少年センター・安行青少年センター・栄町青少年センター・神根青少年野外活動広場・新郷自然の森	施設利用者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	青少年の活動に資する施設の維持・管理を行うもの。	青少年センター、神根青少年野外活動広場等の施設の維持・管理を行う。	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	青少年センター8ヶ所、神根青少年野外活動広場等の施設の維持・管理	年間を通して滞りなく利用者に施設を貸し出すことができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	青少年センター施設年間利用者数			指標・目標値の説明(算定式)	当該施設の事業は施設利用者に活動の場を提供するものであり、目標値を設定することは事業の趣旨にそぐわないため。				
	単位	人	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績値・達成状況	7,636.00	—	6,227.00	—	13,649.00	—			
指標②	名称	神根野外活動広場・新郷自然の森利用件数			指標・目標値の説明(算定式)	当該施設の事業は施設利用者に活動の場を提供するものであり、目標値を設定することは事業の趣旨にそぐわないため。				
	単位	件	指標の種別	結果		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	0.00		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績値・達成状況	34.00	—	48.00	—	44.00	—			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	3 款	3 項	14 目	2 細目	1 細々目	青少年センター等施設管理費			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	6,906	6,524		6,696		6,860	6,860			
決算額(B)=(C)+(D)	5,886	5,494		5,413						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	5,886	5,494		5,413		6,860	6,860		
概算人件費(E)	1,422	1,422		5,313		5,451	5,451			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.18	0.00	0.54	0.00	0.69	0.00	0.69	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,308	6,916		10,725		12,311	12,311			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	どちらともいえない	7 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	11 /15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民のニーズ	見込めない			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	低かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
42 /60	川口市公共施設等総合管理計画において、建築後40年を超えた青少年センターは、順次廃止する方針を決定しているため、これまでの使用形態から、地元町会との綿密な調整をしている。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	青少年体験活動事業			担当	子ども部 青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	14	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり② 地域の教育力・健全育成活動の充実				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市内在住または在学の小学校4年生から6年生	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	青少年が生きる力を身に付け、将来、自立した社会生活が営めるよう、野外や地域における共同生活等の体験事業を実施するもの。	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自然体験村(デイキャンプ)(各回4回、計80名) テント設置、火おこし体験、オリエンテーリング等 通学合宿(定員20名) 参加者の公民館における共同生活(自炊・入浴・清掃等)、地域の方々との交流 	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自然体験村においては、神根青少年野外活動広場を利用して、テント設置や火起こし体験など、デイキャンプとして体験できる事業を実施。 通学合宿においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自然体験村(デイキャンプ)3回実施 自然の中での野外活動を通して、自主性、協調性が育まれた。 	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	子ども自然体験村参加者の「心の成長度」			指標・目標値の説明(算定式)	参加後、「生活面や精神面、家族の接し方等、お子さんに成長が見られましたか。」という保護者へのアンケートについて“成長した”、“やや成長した”と回答した割合。				
	単位	%	指標の種別	成果						
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度				
	実績値・達成状況	0.00	0.00	100.00	達成					
指標②	名称	通学合宿参加者の「心の成長度」			指標・目標値の説明(算定式)	参加後、「生活面や精神面、家族の接し方等、お子さんに成長が見られましたか。」という保護者へのアンケートについて“成長した”、“やや成長した”と回答した割合。				
	単位	%	指標の種別	成果						
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度				
	実績値・達成状況	0.00	0.00	0.00	—	70.00				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	3 款	3 項	14 目	3 細目	1 細々目	青少年体験活動事業				
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度				
予算額(A)	0	61		1,457		2,370	2,370				
決算額(B)=(C)+(D)	0	60		277							
財源※	特定財源(C)	0		50		520					
	一般財源(D)	0		227		1,850					
概算人件費(E)	0		0		3,850	3,950	3,950				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	0		60		4,127		6,320	6,320			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	13 /15	効率性	期待どりの成果	期待以上	15 /15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	検討した			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	事業の実施については現行の枠組みの中において、創意工夫のもと内容の充実化を図る。将来的には各青少年団体が連携を図り、自主的に実施できる事業へと繋げていきたい。	翌年度 現状維持で実施 翌々年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和4年度

事業名称	親子ふれあい事業			担当	子ども部 青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	35	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	・七つの祝い 新たに小学校に就学する子ども及びその家族 ・親と子の音楽会 親と子(家族)	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	・七つの祝いにおいては、来春就学する前の子どもの健やかな成長を祝う ・親と子の音楽会においては、親子が音楽を通しふれあうことにより、青少年の健全育成に望ましい家庭環境の促進を図る	・七つの祝い ななつのやくそく、粗品を配布、青少年団体によるアトラクション ・親と子の音楽会 市内音楽団体による演奏等	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	・10月10日(日)、グリーンセンターにおいて、「川口市七つの祝い」を開催。対象児童737人を含む2,515人の来場があった。 ・「川口市親と子の音楽会」はリア音楽ホールにおいて、「親と子の音楽会」を612人の参加により開催。	親子・家族での参加を促すことにより、親子の絆をふかめ、子どもの情緒を養い、健全な成長に望ましい家庭環境づくりの一助となった。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	七つの祝い対象者参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	過去の実績数値を考慮し設定					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実績値・達成状況	800.00		800.00		800.00		800.00		800.00	
指標②	名称	親と子の音楽会参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	会場収容人数の9割と設定					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	実績値・達成状況	0.00		0.00		612.00		達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	3 款	3 項	14 目	3 細目	2 細々目	親子ふれあい事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
予算額(A)	1,827	2,713		2,555		2,865		2,865		
決算額(B)=(C)+(D)	1,179	1,646		2,339						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	1,179		1,646		2,339		2,865		2,865
概算人件費(E)	3,318		3,577		3,465		3,555		3,555	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.42	0.00	0.45	0.07	0.45	0.00	0.45	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	4,497		5,223		5,804		6,420		6,420	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	13 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	七つの祝いは、参加対象者子育て世代のニーズ等を研究し、対象者が参加したくなるような事業内容を検討する。親と子の音楽会は来場者アンケートの結果から、満足度の高さを計れるが、長年の一様の内容であることから、より楽しんでもらえるプログラムを検討する。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 令和4年度

事業名称	明るい街づくり推進事業			担当	子ども部 青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	33	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	・各地区青少年育成協議会、町会・自治会青少年育成委員会、青少年団体、青少年健全育成、非行防止関係団体関係者 ・市内の小学4年生～中学生	市内の青少年	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	・関係者への青少年健全育成の意識の高揚 ・青少年が自らの存在や社会との関わりを認識 ・青少年に対する市民の理解を深める	・青少年健全育成の功労者・団体及び善行少年の表彰 ・青少年の健全育成に関する講演会の実施 ・小中学生が日常生活で考えていることをテーマにした作文の募集、選考 ・選考した中で最優秀作文を青少年育成関係者が集まる際に朗読	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	・3月4日(土)リア音楽ホールにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応のため、座席数を半分に縮小し270名の参加のもと「明るい街づくり運動推進大会」を開催。 ・応募作文763編の中から選考した18編を「明るい街づくり運動推進大会」の式典で表彰。	青少年健全育成、明るい街づくりに貢献のあった方を表彰することで、市民の地域活動に対する理解が深まり、意識の向上が図れた。小中学生には作文コンクールを通して社会の中で自分の存在意義を認識するきっかけを作ることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	明るい街づくり運動推進大会参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	会場の収容人数の9割と設定			
	単位	人	指標の種別	結果					
	目標値	令和2年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況	540.00		540.00	300.00	400.00		400.00	
指標②	名称	青少年健全育成作文コンクール応募数			指標・目標値の説明(算定式)	過去の応募数を基に平均値を算出し設定			
	単位	点	指標の種別	結果					
	目標値	令和2年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
	実績値・達成状況	2,000.00		2,000.00	2,000.00	2,000.00		2,000.00	

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	3款	3項	14目	3細目	3細々目	明るい街づくり推進事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	1,391	1,600		1,642		1,591	1,591			
決算額(B)=(C)+(D)	333	982		1,323						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	333		982		1,323	1,591			
概算人件費(E)	2,760	4,031		3,632		3,710		3,710		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.34	0.02	0.44	0.15	0.39	0.17	0.39	0.17
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	3,093		5,013		4,955		5,301		5,301	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	13 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	コロナ禍での「明るい街づくり運動推進大会」においては、大会内容の見直しが求められた。また、作文コンクールについては、学校ごとの取組に差があるため、多くの学校に実施してもらえよう周知を強化する必要がある。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	青少年団体活動支援事業			担当	子ども部 青少年対策室	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-258-1115	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	49	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	<ul style="list-style-type: none"> 青少年団体 社会教育施設登録団体 スポーツ少年団 団体に加入していない中学生～30才の市民 	市内の青少年	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	<ul style="list-style-type: none"> 青少年の健全育成のための事業の実施や、体験活動の機会を提供する青少年団体等の活動を支援 青少年団体の運営・指導にあたる次代を担う指導者の養成 	<ul style="list-style-type: none"> 青少年団体等の活動を支援するための交付金・助成金の交付 指導者の養成や知識・技術の向上を図るための指導者養成講習会を実施 	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	<ul style="list-style-type: none"> 交付金、助成金の交付 青少年指導者養成講習会の実施 	青少年活動を支援することによって、青少年の健全育成のための事業や体験活動の一層の促進が図られた。また、リーダー養成による青少年活動が活性化された。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値								
	実績値・達成状況								
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値								
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	3 款	3 項	14 目	3 細目	4 細々目	青少年団体活動支援事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	7,735	8,104		8,674		10,619	10,619			
決算額(B)=(C)+(D)	4,293	4,416		6,277						
財源※	特定財源(C)	2,900		2,900		2,900	2,900			
	一般財源(D)	1,393		1,516		3,377	7,719			
概算人件費(E)	3,002		3,397		3,080		3,160		3,160	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.38	0.00	0.43	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,295		7,813		9,357		13,779		13,779	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	青少年団体への交付金・助成金については、青少年の健全育成に基づく適切な収支となるよう働きかける。また、財源である戸田競艇企業団からの助成金が減額された場合は、交付基準を見直し交付額の調整等を検討する。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	はたちの集い実行委員会交付事業			担当	教育総務部 生涯学習課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-259-7655	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実		
根拠法令等	川口市はたちの集い実行委員会会則		

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	会長(川口市長)、副会長(教育長および教育総務部長)、市内在住の20歳を迎えた青年や経験者で構成された実行委員会等で組織される実行委員会。	市内在住の20歳を迎えた青年。	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内在住の20歳を迎えた青年を対象とした「川口市はたちの集い」を開催し、20歳になったことを祝い励ますと共に、大人としての自覚と自主性を促すことを目的とする実行委員会に対し、補助金を交付する。	川口市はたちの集いの計画・実施を行う実行委員会に対し、補助金を交付する。	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	はたちの集い実行委員会に対し補助金を交付した。	参加者の代表である実行委員が企画・運営をすることにより、参加者の視点や意見を充分に取り入れることができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	6 項	1 目	3 細目	1 細々目	はたちの集い実行委員会交付事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	11,680	11,680		11,680		11,680	11,680			
決算額(B)=(C)+(D)	9,680	10,942		10,903						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	9,680	10,942		10,903		11,680			
概算人件費(E)	7,900	7,900		7,700		7,900	7,900			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	17,580	18,842		18,603		19,580	19,580			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方針	今後の実施方向性
58 /60	特になし。	翌年度 現状維持で実施 翌々年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	子ども大学かわぐち実行委員会交付事業			担当	教育総務部 生涯学習課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-259-7655	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 24 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実
根拠法令等	子ども大学かわぐち実行委員会設置要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民(市内小学校4~6年生児童)	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	子どもの学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子どもの育てる仕組みを創るために、知的好奇心を刺激する学びの機会を提供することを目的とする実行委員会に対し、補助金を交付する。	子ども大学かわぐちの計画・実施を行う実行委員会に対し、補助金を交付する。	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	子ども大学かわぐちの計画・実施を行う実行委員会に対し、補助金を交付した。	実行委員を中心に、地域の大学、高等学校、企業が連携することで、地域で子どもを育てる仕組みづくりや、子どもの学ぶ力、生きる力の育成する活動を推進できた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	6 項	1 目	4 細目	2 細々目	子ども大学かわぐち実行委員会交付事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
予算額(A)	437	437		200		200		200		
決算額(B)=(C)+(D)	0	0		200						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	0		200		200				
概算人件費(E)	0		0		2,541		2,607		2,607	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.33	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	0		0		2,741		2,807		2,807	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	特になし。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	地域学校協働活動推進事業			担当	教育総務部 生涯学習課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	048-259-7655	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和	3	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり-② 地域の教育力・健全育成活動の充実				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	・学校応援団 ・放課後子供教室管理運営業務の委託先(地域団体、NPO等)	・学校応援団実施校 ・放課後子供教室開催校区に在籍する児童	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	幅広い地域住民等の参画を得ながら地域全体で子供たちの学びや成長を支えようと、「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校とが連携・協働して行う活動の推進を図る。	・放課後子供教室や学校応援団等の取り組みをつないでネットワークを構築し、活動の充実・発展や推進体制の整備等を行う。 ・推進協議会や研修会を開催し、推進員の養成や活動の支援等を行う。 ・児童・生徒の地域への参画を促進し、地域と学校の双方向的な連携・協働体制を構築する。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	・学校応援団に係る消耗品等の購入 ・放課後子供教室管理運営業務委託契約の締結 ・放課後子供教室管理運営業務の委託先との連絡・調整	・学校応援団の活動を推進することができた。 ・児童に対して多様な学習機会を提供することができた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	学校応援団実施校数			指標・目標値の説明(算定式)	市立小・中学校全校で実施することを目標とする				
	単位	校	指標の種別	結果						
	目標値	令和2年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
	実績値・達成状況	-	-	78.00	達成	78.00	達成			
指標②	名称	放課後子供教室開催校数			指標・目標値の説明(算定式)	市立小学校全校で開催することを目標とする。				
	単位	校	指標の種別	結果						
	目標値	令和2年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度			
	実績値・達成状況	-	-	28.00	未達成	33.00	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	6 項	1 目	4 細目	3 細々目	地域学校協働活動推進事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	0	29,030		30,397		35,797	39,387			
決算額(B)=(C)+(D)	0	23,645		28,386						
財源※	特定財源(C)	0	7,795		9,460		11,932			
	一般財源(D)	0	15,850		18,926		23,865			
概算人件費(E)	0	9,480		9,240		9,480		9,480		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.00	0.00	1.20	0.00	1.20	0.00	1.20	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	0	33,125		37,626		45,277		48,867		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	学校応援団については、市立小・中学校全校で実施することができた。放課後子供教室については、令和5年度までに全校区で開催することが求められている(文部科学省)が、まだ達成できていないので、今後も開催校を増やせるように努めていく。	翌年度	拡充して実施
		翌々年度	拡充して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和4年度

事業名称	未来を拓くふれあいトーク事業			担当	学校教育部 指導課	
事業区分	通常事業	-	問い合わせ先	258-1110 18812	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	28	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	II 子どもから大人まで“個々が輝くまち”-2 子どもの成長をサポートする基盤づくり② 地域の教育力・健全育成活動の充実				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市立中学校及び高等学校に在籍する生徒	市立中学校及び高等学校に在籍する生徒	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	選挙権年齢が18歳に引き下げられたことにより、将来の有権者であり次代を担う中・高生が、政治や選挙に関する基本的な知識を身に付けるとともに、興味・関心を高めてもらう機会とする。	市立中学校及び高等学校に在籍する生徒が、市長や教育局職員と市政や選挙の仕組みなどについての懇談を行う。	
当該年度の実施内容及び成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	事業の成果【定性的評価】	
	7月に川口市役所第一本庁舎601大会議室において、市立中学校27校より代表1名、市立高等学校より代表1名、計28名が、第1部で議場見学と教育局職員による選挙制度についての学習会を、第2部で市長と川口の市政や市長の仕事などについて、懇談を行った。	議場を目の当たりにすることや、市長と双方向で意見交換を行うことにより、市政への理解、市民としての自覚の醸成や将来の有権者としての政治意識の向上が図られた。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	1 項	3 目	3 細目	5 細々目	未来を拓くふれあいトーク事業			
年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	令和6年度			
予算額(A)	55	53		50		56	56			
決算額(B)=(C)+(D)	29	50		50						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	29		50		50	56			
概算人件費(E)	790		790		1,540		1,580		1,580	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.10	0.00	0.10	0.00	0.20	0.00	0.20	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	819		840		1,590		1,636		1,636	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	効率性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
有効性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策		今後の実施方向性	
52 /60	各校の代表者が修得した政治や選挙に関する知識を、全生徒で共有するとともに、生徒同士がより深く政治について話し合い、議論を重ねることにより、有権者として求められる政治的教養を深めていく必要がある。今後も、事業実施後に、各学校において担当教員による系統的な指導を実施していく。		翌年度	現状維持で実施
			翌々年度	現状維持で実施